

ガンコ親父の

昔、ある領地に「雨入編照」と呼ばれていた松次郎という猟師がいた。その松次郎が住む地のお殿様はよくできた人だったが、病気のため他界してしまった。すぐに出来の良くない息子が殿様を継いだ。

わがままな2代目の殿様は自分の威厳を徹底させるため、道で出会う人たちにも跪いて深々と頭を下げる挨拶を強要した。村々の至る所に「挨拶のおふれ」が張り出されて人々は戸惑った。しかし、従わないと牢に入れられることを知り、イヤイヤながら殿様一行には頭を下げた。

ある日、松次郎とその息子は久しぶりに山から町に降りてきたが、何か人々の表情には暗いものがあった。それもそのはず、遠くから馬に乗ったお殿様の一行が近づいてきたからであった。殿様は狩りからの帰りで、お供の者は弓矢を持って従っていた。松次郎の息子は立派な弓矢に見惚れて、顔を上げたままそれを見ていた。殿様は跪かず、頭を下げない子供を睨みつけると、家来に捕らえるよう命じた。松次郎は頭を地につけて許しをこうた。

奄美黒糖焼酎

「おい、お前。その格好は商人でも農民でもないようだが、職業は何じゃ？」と殿様が松次郎に尋ねた。「猟師でございます。」と名前は何という？」

「はい、松次郎と申します。仲間からは雨入編照とか呼ばれています」「おお、何と。今、ウイリアム・テルと申したか」と殿様は目を丸くした。

伝え聞くところによると、ウイリアム・テルという人物はヨーロッパで有名な弓の使い手として、ヒーロー扱いされているらしい。

「そこか、そこか。ウイリアム・テルか。それじゃこんなのはどうかな？」と、殿様にピアッとアイディアが閃いた。すぐに、家来に耳打ちすると、その家来は松次郎にニヤニヤして無理難題を投げかけたのだった。

目隠しした息子を立たせ、頭の上にはリングより小さいみかんを乗せた。「弓の名人や。息子の頭上のみかんを遠くから撃ち落とせるかな？もし、見事に撃ち落とすなら、息子を放免しよう。できるかなこの弓矢で？特別に今日は矢を2本つかわそう」

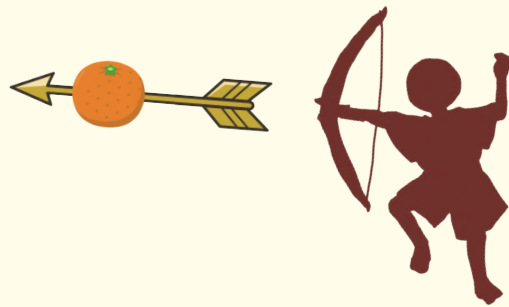
道の周りには、大勢の野次馬が集まり、みんな固唾を呑んでその一瞬を待った。松次郎が弓を引くや否や悲鳴は起こり、矢は息子の頭上目掛けて飛んだ。見事に矢はみかんに命中し、観客達は安堵のため息を漏らした。

松次郎は2本目の矢を、偉そうにしている家来めがけて放った。「お前、何するんや！」家来は青ざめ、腰を抜かしたが、近くに射抜かれた大きな毒蛾が落ちているのを見て、気が遠くなった。

近くの茶屋の主人が「お前さんの腕前すごかったな。あの家来の顔色ったらありやしなかったな、スツとしたわ。」

これ、俺からのお礼の気持ちだよ」と言って、『しまっちゅ伝蔵』が入った湯呑みを松次郎に差し出した。今度は松次郎の心が射抜かれてしまったのだ。

めでたし、めでたし。



しまっちゅ伝蔵
でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界町
鹿児島県

「弓矢」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。